〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:htt://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

8月号
第 60 巻　第 7 号
2015 年

無料
Free

もくじ

今月の 1 枚 …… 1ページ
・ライチョウ舎竣工・オープニングセレモニー
展示のご案内 …… 2ページ
・企画展特集
「山岳風景画の世界　－“山博（さんぱく）”収蔵コレクション－」のみどころ
イベントのご案内 …… 3ページ
・ふぞくえんまつり
博物館のひろば …… 4ページ
・青木湖キャンプにおける学習支援　・職業体験学習
・山の歴史ウォーキング　－市街地編－　・ウォーキング教室「やっほープログラム」
・チョウの観察会（1回目）　・スバールバルライチョウを観察してみよう！

ライチョウ舎竣工・オープニングセレモニー
―ライチョウ飼育へ再出発―

藤井一男教育委員長(左)、二條孝夫市議会議長(左 2 番目)、牛越徹市長(中央)、諏訪光昭長野県議会議員(右 2 番目)、荒井今朝一教育長(右)

平成 27 年 7 月 4 日、午前 10 時から新ライチョウ舎前において、ライチョウ舎竣工・オープニングセレモニーを開催しました。当日は雨交じりの天気の中、諏訪県議会議員、二條市議会議長をはじめ多くのご来賓のご臨席のもと、市長さんやご来賓のあいさつ、テープカットやライチョウ舎の概要説明等と共に、スバールバルライチョウの見学会も行われ、一般参加者も含め大勢の方が付属園を訪れました。

スバールバルライチョウはセレモニー開催に先んじて、6 月 25 日に富山ファミリーパークからオス 3 羽、同ファミリーパーク及び石川動物園から卵 27 個を受入れ、既に飼育やふ卵を開始しておりましたが、当日は元気に、独特の鳴き声と愛らしい姿でお客さんをお出迎えしていました。

新しいライチョウ舎は、厳寒の中本年 2 月に建設を着工し、工事関係者のご努力により、予定より若干遅れたものの 6 月 15 日に完成いたしました。木造平屋建ての東棟、中央棟、西棟の 3 棟にて構成され、延床面積 94.13 ㎡・総工費 41,817,600 円で、冷房や日照調整、防塵のための設備を備え、衛生管理等ライチョウの生息環境に配慮した構造となっております。

今後は、スバールバルライチョウの飼育・繁殖の実績を積みながら、平成 16 年 2 月より途絶えておりましたニホンライチョウ飼育の早期再開を目指して進めてまいります。

スバールバルライチョウは 7 月 4 日より一般公開していますので、ライチョウ共々、大勢の方のご来園をお待ちしております。　（山岳博物館長　鳥羽章人）

展示のご案内

企画展特集

「山岳風景画の世界 ―“山博（さんぱく）”収蔵コレクション―」（会期：7月18日～10月12日）のみどころ

関　悟志

開催にあたって

企画展では、当館など大町市が収蔵する美術資料のうち、日本山岳画協会の創立会員や初期の会員を中心に、明治期以降の作家が描いた北アルプスなどの山岳風景画作品 16 点を展示します。あわせて山岳画家が愛用した登山道具を展示します。

今回、展示する美術資料に関して、資料にまつわる各種情報をあらためて収集・整理しようと試みました。具体的な資料情報としては、描かれた山岳風景の場所を特定したいと考えました。また、作画当時のエピソードや、描いた画家が持ち合わせていた山に対する思いなどについて、作者自身が残した“ことば”から探ってみたいと考えました。

展示資料の中から、山岳風景画作品 1 点をピックアップして、描かれた作品のモチーフ（主題、題材）と作画当時の様子を以下ご紹介します。

展示資料紹介

大下藤次郎《六月の穂高岳》1907（明治 40）年　水彩・紙　当館蔵

大下藤次郎　六月の穂高岳

作品の画面奥、中央に描かれた山は奥穂高岳で左には間ノ岳や西穂高岳が連なり、谷間には残雪が見えます【上写真】。こうした山容は、現在の梓川・岳沢出合、梓川右岸付近から望む風景に近いと思われます【右写真】。作品の前景には笹でしょうか一面のじゅうたんのような緑の中に栂の白い枯木が立ち、中景には柳の仲間でしょうか広葉樹の林から青々とした枝葉を茂らせた一段と背の高い栂と思われる針葉樹がところどころ頭を伸ばしています。こうした周辺の樹木等の様子は 100 余年前の作画当時からは変化していると考えられますが、現在、この付近から作品の前景・中景に描かれたような立木越しに穂高連峰をかろうじて見通せる場所は、岳沢湿原付近です。

『山岳』第 2 年第 3 號（山岳會事務所、1907）によると、1907（明治 40）年 7 月 18 日と 20 日の両日、午後 4 時から 7 時ころまで写生し、なるべく主観を除いてただ見えるまま素直に描いたのがこの作品であると作者の大下藤次郎自身は述べています（「口繪穂高山殘雪寫生の旅行談及び所感」）。

この作品は前掲『山岳』の口絵を飾り、そこでは「穂高山の残雪」と題されています。この作品のほかにも、ほぼ同じ構図の作品「穂高山の残雪」（1907 年 水彩・紙 島根県立石見美術館蔵）が残されています。

藤次郎はこれらの作品を描いたときの状況を次のようにも後述しています。

> 橋を渡り、宿近くの笹原から、雪の穂高を写し始めた。暮れゆく空の感じもよい、麓に立てる枯木の白きもよく調和する。（中略）前々日の半成なりし、橋手前の写生を続け、薄暮宿へ帰つた。
>
> 【大下藤次郎著「穂高山の麓」『みづゑ』52 号（1909）
> 同著／近藤信行編『大下藤次郎紀行文集』（美術出版社、1986）収録】

描かれた作品からは、のびのびとしたスケッチの雰囲気が伝わり、自然美を描くために悠々と絵筆を運んでいる姿が想像できそうですが、実際はこのとき写生した場所は虫が多くて手で追い払っても逃げず、ブヨやハエや蚊に顔や手など露出した部分を刺され、かゆみと痛さに苦しめられながら描いたと紀行文の中で述べています。

「六月の穂高岳」は藤次郎と親交の深かった小島烏水が旧蔵していました。藤次郎の上高地訪問はことのときがはじめてで、烏水に薦められてのことでした。藤次郎は友人で画家の磯部忠一を誘って、この上高地への写生旅行に出発。ふたりは東京から汽車で諏訪経由にて松本へ行き、ここから馬車で島々へ。島々で岡田作次という案内者兼荷物持ちを雇い、徒歩で徳本峠を越えて上高地入りしました。そして、上高地温泉に 5 泊し、周辺で写生をして過ごしました。

モチーフ：梓川・岳沢出合付近（岳沢湿原付近）から望む穂高連峰
写真撮影場所：梓川・岳沢出合付近（梓川右岸）

このほかにも、企画展では、バラエティーに富んだ山岳風景画作品を展示し、各作品の背景をご紹介しています。それぞれの山岳画家たちが各々の山に対する思いを作品に込めて表現した山岳風景画が持つ世界観を、ぜひ会場で感じていただければ幸いです。

なお、本展の開催にあわせ、展示内容を詳しくまとめた展示解説書（部数限定、体裁：A4 判・カラー 37 頁、価格 500 円）を編集・発行しました。ご希望の方は当館にてお求めください。

（市立大町山岳博物館　学芸員）

イベントのご案内

山岳博物館　市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第３日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。８月は15日（土）と16日（日）です。

付属園まつり

山岳博物館では、動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設しています。「付属園まつり」として各種催しを実施します。さまざまな催しを通して、市民の皆さんに付属園と飼育動物を身近に感じて親しみを持っていただき、付属園の役割について知っていただきます。さらに、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただきたいと思います。

８月９日・８月 15 日には付属園に「おおまぴょん」、８月９日の午前中には「ガンズくん」がやってきます。すべて参加無料です。ぜひお越しください。

会　　期　平成 27 年８月８日（土）～８月 16 日（日）
日　　時　催しごとに開催日と時間が異なります。
会　　場　山岳博物館付属園
申し込み　全て不要です。
問い合せ　山岳博物館 TEL・有線 22－0211、FAX・21－2133

①「どうぶつ写生大会」

付属園の飼育動物を題材にして描く写生大会です。参加作品の中から優秀作品約 30 点を選出し、日本動物園水族館協会中部ブロック写生大会に応募します。また、写生大会終了後、全参加作品を博物館で展示します。

□開 催 日　８月８日（土）～ 16 日（日）
□時　　間　午前９時～午後４時 30 分
□対象・定員　未就学児から小学生
□持 ち 物　写生用具
□申し込み　当日、山岳博物館窓口にお越しください。画用紙と画板を窓口でお渡しします。

②「ふぞくえんスタンプラリー」

付属園の飼育動物を観察しながら、園内に設置してある台紙にオリジナルスタンプを集めてみましょう。全て集めたら、特典の特大スタンプを山岳博物館窓口で押して完成です。スタンプは飼育員の手作りです。今回はどんな絵柄が用意されているのか、お楽しみにしてください。

□開 催 日　８月８日（土）～８月 16 日（日）
□時　　間　午前９時～午後４時 30 分　　※雨天中止
□申し込み　どなたでもご参加いただけます。当日、付属園にお越しください。

③「どうぶつ観察ツアー」

付属園で、普段はなかなか近くで見ることができない飼育動物たちを、間近で一緒に観察しませんか。飼育員が、ご来園の皆さんと一緒に園内を回り、飼育している動物たちのことを詳しくお話します。

□開 催 日　８月８日（土）～９日（日）
　　15 日（土）～ 16 日（日）
□時　　間　各日とも午前と午後に１回ずつツアーを実施します（約 20 分）
　　午前の部　午前 10 時 30 分～
　　午後の部　午後２時 30 分～
　　※少雨実施（大雨中止）
□申し込み　どなたでもご参加いただけます。当日、ツアー開始時刻までに付属園入口にお越しください。

④「おおまぴょんとあそぼう」

付属園には「おおまぴょん」のモデルのニホンカモシカを飼育展示しています。

また、本年度から大町市が松本山雅ＦＣの５市村目のホームタウンとなりました。これを記念し、松本山雅ＦＣのオフィシャルマスコット「ガンズくん」を８月９日に招待します。

「ガンズくん」、「おおまぴょん」とふれあい親しみながら、ライチョウとカモシカの特徴について理解を深めていただければと思います。

□開 催 日　８月９日（日）、15 日（土）
□時　　間　午前の部　午前 11 時～
　　午後の部　午後３時～
　　各回 20 分程度
　　※雨天時は館内にて
　　※ガンズくんは８月９日の午前のみとなります
□申し込み　どなたでもご参加いただけます。当日、開始時刻までに付属園入口にお越しください。

©松本山雅 FC

博物館のひろば

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
・大町市内在住の 65 歳以上の方
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方
（入場の際、受付にてお名前等をご記入ください）

大町市立西小学校 5 年生 青木湖キャンプにおける学習支援

平成 27 年 6 月 11 日（木）実施

大町市立大町西小学校 5 年生の青木湖キャンプにおいて、自然科学系と人文科学系学芸員の 2 名による「青木湖なぞ解きウォークラリー」を提供させていただきました。

このプログラムは、班ごとに分かれて、パネルの問題を協力して解き、1 枚の用紙に考えをひとつにまとめた後に、学芸員と一緒にこたえ合わせをするものです。解説では、大きなパネルや実物を用いて、青木湖を含めた仁科三湖（木崎湖・中綱湖）がどのようにしてできたのかを地形や糸魚川ー静岡構造線、地震との関係を示し、また、青木湖に見られる遺跡群や人々の生活について解説をいたしました。

「職業体験学習」を受け入れました

大町市立八坂中学校 2 学年
平成 27 年 6 月 17 日（水）・18 日（木）実施
大町市立大町第一中学校 2 学年
平成 27 年 7 月 2 日（木）・3 日（金）実施

山岳博物館では、中学生などの職業体験学習の受け入れを毎年実施し、地域における社会教育施設として、学校教育におけるキャリア教育推進に協力しています。今年も 6 月から 7 月初めにかけて、八坂中学校 2 年生 2 人と大町第一中学校 2 年生 2 人が各 2 日間の職業体験学習を行いました。飼育員といっしょに餌の調理・給餌、飼育舎の清掃、園内の整備という通常業務を一通り体験していただきました。

短期間の実習ではありますが、今後の進路の参考していただければ幸いです。

山の歴史ウォーキング ―市街地編―

平成 27 年 6 月 20 日（土）実施

山岳博物館では友の会と共催で「山の歴史ウォーキング 体感！ 山岳文化都市おおまち ―市街地編―」を実施しました。大町市内にある北アルプスの山岳文化史ゆかりの各所を歩いて巡る催しで、18 人の参加がありました。今回は大町駅前から常盤泉仏崎までをフィールドとし、昭和初期に伝書鳩を利用した山岳通信の事業を展開した中部山岳鳩協会の建物跡や、明治初期に近代登山のさきがけとして白馬岳登山を実践した教育者・渡邊敏をたたえる石碑など見学。各所では学芸員が解説を行いました。

今後、探訪場所をかえながら、シリーズとして実施していく予定です。

市福祉課主催ウォーキング教室「やっほープログラム」に協力しました

平成 27 年 6 月 23 日（火）・
7 月 2 日（木）・7 日（火）実施

山岳博物館では初めての試みとして、大町市福祉課包括支援センター主催のウォーキング教室に参加した皆さんに、ウォーキングの目的地の鷹狩山や旧山の子村において、当地の歴史や地理についてお話する機会があり協力しました。鷹狩山展望台から見る北アルプスを見ながら、北アルプスの成り立ちや、山名の歴史、雪形、山頂に建立された金刀比羅宮などの歴史を学んでいただきました。

運動しながら現地での気分転換のプチ歴史講座。新しい山博の活用の仕方の一例になりました。

チョウの観察会（1 回目）

平成 27 年 6 月 28 日（日）実施

山岳博物館では、平成 28 年 2 月 13 日（土）～4 月 10 日（日）に、信州大学山岳科学研究所との連携企画展「大北・安曇野の自然に蝶が舞う」を開催いたします。

開催に先立ち、地域の自然に興味・関心を持っていただけるよう、3 回のシリーズで「チョウの観察会」を開催いたします。
講師には、江田慧子（こうだけいこ）さんと中村寛志（なかむらひろし）さんを迎え、この度は、チョウの採集の仕方と調べ方について学びました。

なお、採集したチョウは、企画展で飾るほか、地域の自然を語る証拠であることから、博物館において大切な標本資料として収蔵・管理いたします。

スバールバルライチョウを観察してみよう！

平成 27 年 7 月 4 日（土）・5 日（日）実施

山岳博物館では、平成 27 年 6 月 12 日（金）～7 月 12 日（日）に開催の企画展「山博にライチョウがやってくる！山博『ライチョウの里』へ再出発」のひとつとして、期間中「スバールバルライチョウを観察しよう！」を開催しました。

2 日間（計 4 回）で、約 90 名の方にご参加いただき、関心の高さが伺えました。

解説は、間近で 3 羽のオスを観察できるライチョウ舎のまえで実施し、スバールバルライチョウとニホンライチョウのすんでいる環境や換羽をパネルで比較したほか、クイズに参加いただき、ライチョウへの理解を深めていただきました。

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
―創立 1951 年―

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:htt://www.omachi-sanpaku.com

8 月号
第 60 巻 第 7 号
2015 年

発行日　2015（平成 27）年 7 月 25 日

印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010